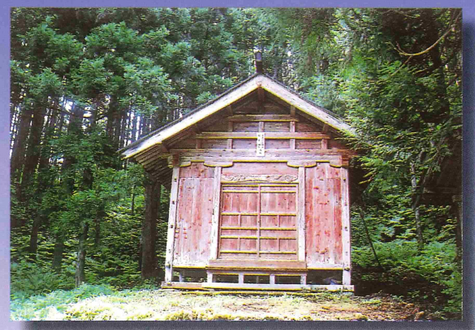


境内社
「金刀比羅神社」
「秋葉神社」合殿

神輿殿

合殿は、装飾は簡潔であるが、妻飾(つまかざり)に化粧梁、化粧束を付した、秋田地方に多く見られる明治中期の社殿である。明治41年（1908）に建立された神輿殿も、非常に簡潔な構造であるが、近代神輿殿の姿を示す好例である。

文化７年（1810）に建立された石造稲荷鳥居は、一般のものより亀腹(かめばら)（基壇部分）や台輪が大きく、重厚な造りになっている。また、天保13年（1842）に建立された木造両部鳥居は、多くの修理が加えられているものの、その姿は非常に均整がとれ、往時の面影をよく今に伝えている。

木造　両部鳥居

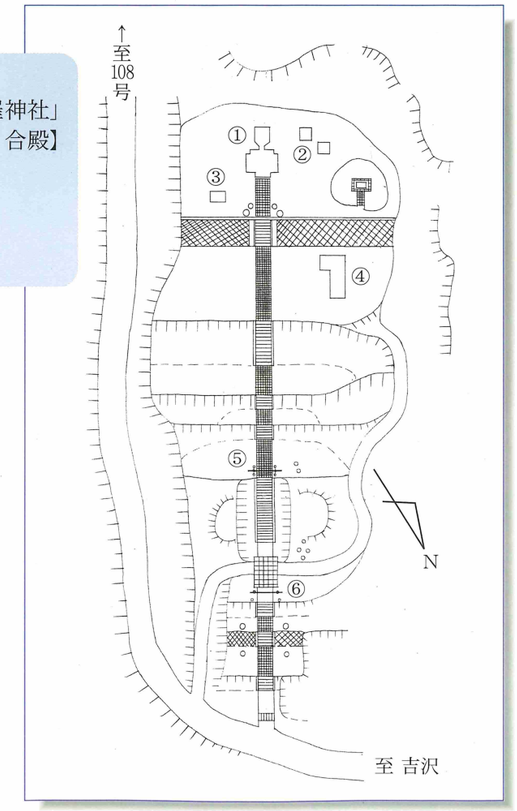
石造　稲荷鳥居

神明社の歴史

吉沢「神明社」は、正保元年（1644）、佐藤左衛門之丞が伊勢神宮に代参した時、その尊厳さに深く感動し、神宮の御神木と社殿床下の土を拝戴して帰り、御堂を建立したのが始まりであると伝えられている。享保３年（1718）以降幣殿や宮殿などが造営されている。

神明社略年表

正保元年	（1644）	創建。
享保３年	（1718）	新社殿建立。
文化７年	（1810）	稲荷鳥居建立。
天保12年	（1841）	社殿焼失。
天保13年	（1842）	両部鳥居建立。
文久３年	（1863）	新社殿造営着手。
慶応３年	（1867）	新社殿完成。
明治６年	（1873）	神明社に復古。
明治16年	（1883）	宮殿造営。
明治中期		境内社「金刀比羅神社」・「秋葉神社」合殿造営。
明治41年	（1908）	神輿殿造営。
大正４年	（1915）	本殿造営。拝殿に幣殿を増築。



①神明社社殿
②境内社【「金刀比羅神社」
「秋葉神社」合殿】
③神輿殿
④社務所
⑤両部鳥居
⑥稲荷鳥居

国登録有形文化財 神明社　所在地　秋田県由利本荘市吉沢字上林42番地

国登録有形文化財

神明社

時代を生きる工匠の技

本殿　宮殿
合殿　神輿殿
両部鳥居　稲荷鳥居
拝幣殿

装飾性豊かな神明造の社殿　神明社

神明社

1ヶ所7件

- 本　殿
- 神輿殿
- 宮　殿
- 稲荷鳥居
- 拝幣殿
- 両部鳥居
- 合　殿

神明社は、正保元年（1644）創建と伝えられており、享保年間（1716～1736）以降、拝幣殿や宮殿など造営されている。

本殿は、石積み基壇上に建つ神明造の社殿である。切妻造、銅板葺で、棟に千木と勝男木を上げている。縁は隅を放射状とした切目縁で、縁の端近くまで妻壁から離して棟持柱を建てている。

本殿内に安置された宮殿は、金箔漆、飾り金具を多用する装飾豊かな遺構である。特に屋根は特異で、寄棟屋根に千鳥破風付きの切妻屋根を載せた七面造り風の構造になっている。千鳥破風の懸魚には、近世当地を治めた六郷氏の六郷亀甲を用いている。

拝幣殿は、文久３年（1863）７月に着工してから、慶応３年（1867）に完成するまで４年の歳月を費やした建造物である（大正４年本殿建立の際、さらに増築している）。建物は、桁行三間、梁間三間の拝殿と、桁行三間、梁間二間の幣殿からなっており、棟をＴ字形にした社殿である。正面の構えは千鳥破風と軒唐破風付きの向拝とからなり、向拝柱と拝殿側柱に架けられた繋虹梁の上には、力士像を一対置いている。

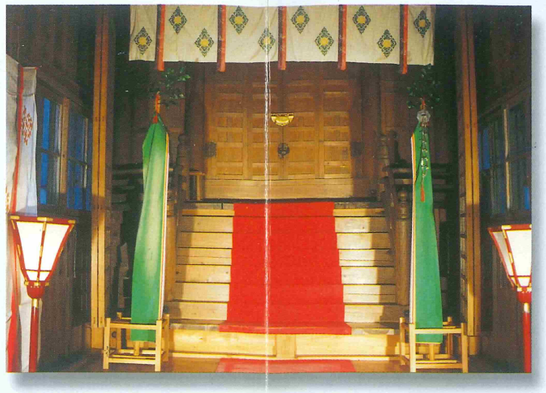
その他拝幣殿には、龍、獅子、鳳凰、竹虎、波乗兎、菊など数多くの題材の彫刻が、彫師　小川松四郎によって施され、内部にも本荘藩お抱え絵師　鈴木梅山や牧野雪僊、谷川丹山の描いた壁画や大絵馬、天井画など、本荘由利を代表する狩野派画人の作品が多く、装飾性が非常に高い。

このように、神明社は、由利地域の代表的な社殿であり、近代の社殿建築を考えるうえで非常に価値が高い遺構である。

本　　殿	◎木造平屋建	銅板葺	……	41m²	大正４年建立
宮　　殿	◎木造平屋建	板　葺	……	2m²	明治16年建立
拝 幣 殿	◎木造平屋建	銅板葺	……	158m²	慶応３年建立（大正４年増築）
合　　殿	◎木造平屋建	鉄板葺	……	21.14m²	明治中期建立
神 輿 殿	◎木造平屋建	鉄板葺	……	16.22m²	明治41年建立
稲荷鳥居	◎石造		……		文化７年建立
両部鳥居	◎木造		……		天保13年建立

神明社　正面

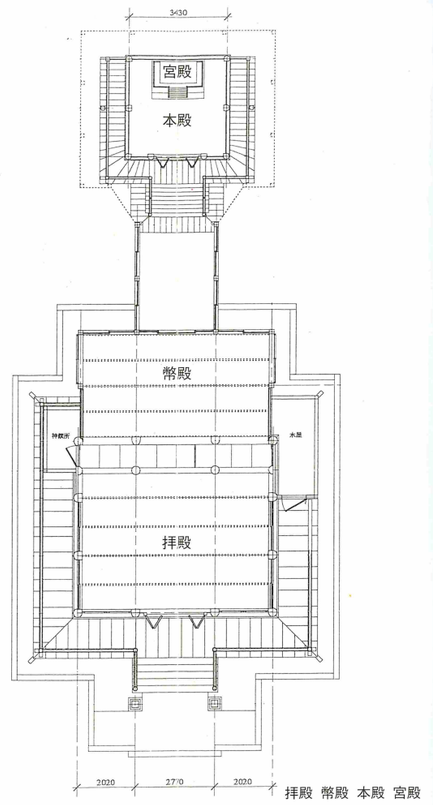
拝殿内観（正面奥は幣殿）



本　殿

天井画　谷川丹山　筆

宮　殿



拝殿　幣殿　本殿　宮殿

壁　画　鈴木梅山　筆

壁　画　鈴木梅山　筆

多くの彫刻が施された装飾性豊かな拝幣殿

繋紅梁に載せられた力士像

大絵馬　牧野雪僊　筆